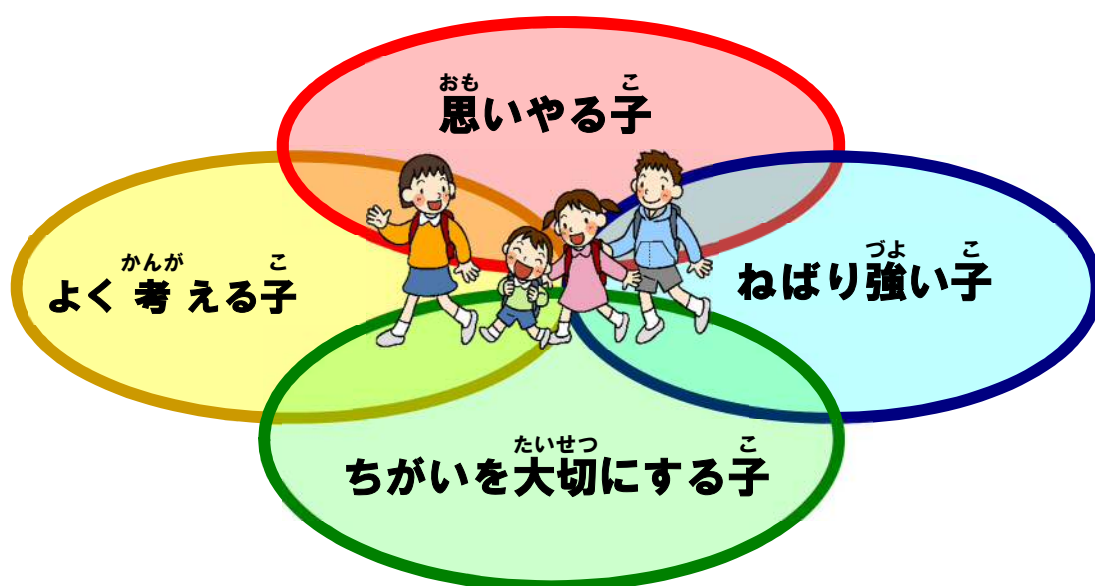


いじめ防止基本方針

本校のめざす子どものすがた



平成26年4月

四日市市立笹川東小学校

はじめに

本校では、「生き生き学び、心豊かにたくましく共に生きる子どもを育てる」を学校教育ビジョンに掲げ、「明日も通いたい東小学校」「家庭・地域に開かれた東小学校」「やりがい・喜びのある東小学校」を目指しています。

その実現のために、子どもたちが、心の通じ合うコミュニケーション能力を育み、規律正しい態度で授業や行事に主体的に参加・活躍できるような「授業づくり」や「仲間づくり」を行っています。併せて、集団の一員としての自覚や自信を育むことにより、お互いを認め合える人間関係・学校風土をつくっています。

さて、本校では、今回「学校いじめ防止基本方針」を策定し、「いじめの防止」等の推進ならびに「重大事態」等に対処するため、四日市市いじめ防止基本方針に基づき、学校が重点的に取り組んでいることや、今後大切にしていこう取り組みについてまとめました。

また、「いじめが起こった場合のフロー図」や「いじめ防止対策年間計画」も作成し、予防・早期発見の徹底と発生時の対応について具体的に示しました。

いじめは、決して許される行為ではありません。いじめられている子どもがいた場合には最後まで守り抜き、いじめをしている子どもにはその行為を許さず、毅然として指導してまいります。

いじめの定義（法第2条）

いじめとは、「児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているもの」をいう。

※ 個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、表面的・形式的にすることなく、いじめられた児童生徒の立場に立つことが必要である。

第1章 学校におけるいじめ防止等に関する取組について

1 いじめの防止

学校の教育活動全体を通して、人間としてよりよく生きようとする意欲や態度を身につけさせていきます。子どもたちが学校生活で充実感や存在感が持てるように、本校では、「授業づくり」「仲間づくり」の2つの視点から、子どもたちの健全育成を図っていきます。

(1) 「授業づくり」において

① 基礎基本の学力の定着

- ・ 子どもたちにつけたい力を明確にした「わかる授業」を行います。
- ・ 2年生以上の学年において、3つのコースに分かれた少人数教育を行い、基礎・基本の確実な習得のためのきめ細かな指導を推進します。

② 生き生きと学び合う学習の推進

- ・ 子どもたちが思いや考えを表現し合い、互いに高め合える授業を行います。
- ・ 一人一人の考えを大切に、共に学び合うすばらしさを体得する授業を行

います。

(2) 「仲間づくり」において

- ① 規範意識が高く、正義感のある「仲間づくり」
 - ・ 西笹川中学校区「学びの一体化」の取組みとして、社会のルールを守り、学校のきまりや学習規律を守ることでできる規範意識の共通認識を図ります。
- ② 思いやり、支え合う「仲間づくり」
 - ・ 学級や学校をすべての児童が安心・安全に生活できる場所にします。また、日々の授業や行事等において、すべての児童が共に高め合い、活躍できる場面をつくります。
 - ・ 人とかかわる喜びを味わい、心が通じ合いコミュニケーション能力を育む異学年交流の機会を設けます。

2 いじめ防止啓発

- (1) 『『いじめ』に関する指導の手引』を有効活用しています。
 - ① 手引を基にして、いじめについての共通理解を図っています。
 - ② 「いじめ発生時の基本的な対応図」により、予防対策、早期発見、早期対応、解決を図るまでの対応を明確にしています。
- (2) 「いじめや差別をなくすために私たちにできること～見直そう、振り返ろう～自らの人権感覚（学校関係者編）」等を活用し、教職員自身のいじめに対する人権意識を見直すための研修会を実施しています。
- (3) いじめに関するリーフレット「いっしょに考えよういじめ問題（保護者編）かけがえのない子どもたちのために」（各種相談機関一覧掲載）を保護者に配付し、学校とともにいじめ問題について考える機会とします。
- (4) 国立教育政策研究所作成「いじめのない学校づくり」「いじめと向き合う」「いじめと暴力」「いじめ追跡調査 2010 - 2012 いじめについて、正しく知り、正しく考え、正しく行動する」「学校と警察等との連携」を有効活用します。
- (5) 啓発活動の一環として、いじめ防止強化月間を設けるなど、全校で意識の高揚を図ります。
- (6) 各種相談機関を周知します。
 - ① 「いじめや体罰等に関する相談電話（059-354-8169）」
「いじめ相談メール（y-ijimesoudan@city-yokkaichi.mie.jp）」
「不登校や発達障害に関する相談電話（059-354-8285）」（教育委員会）
 - ② 「青少年と家庭の悩み相談電話（059-352-4188）」（こども未来部青少年育成室）
 - ③ 「人権に関する相談電話（059-354-8610）」（人権センター）
 - ④ 「被害少年の悩み、問題行動等（059-354-7867）」（北勢少年サポートセンター）
 - ⑤ 「児童虐待、不登校、養育等（059-347-2030）」（北勢児童相談所）
 - ⑥ 文部科学省 24 時間いじめ相談ダイヤル（0570-0-78310）（全国共通ダイヤル）

3 いじめの早期発見

いじめは大人の目に付きにくい時間や場所で行われたり、遊びやふざけあいを装って行われたりするなど、大人が気づきにくく判断しにくい形で行われることが多い傾向があります。そのため、些細な兆候であっても、いじめではないかとの認識を持って、早

い段階からの確に関わりを持つように努めます。

(1) 日常的な取り組み

- ① 日常的な児童との対話だけでなく、日記、作文等にも目を通して、子どもの変化やサインにいち早く気づくことができる体制を整えています。
- ② いじめ等問題行動の発生しにくい、信頼で結ばれた人間関係のある学級・学年経営をしています。
- ③ 管理職や教職員、スクールカウンセラーが校内を巡回して早期発見に努めています。
- ④ 毎月、職員同士で各学級の情報交換し合える場を設定し、児童の変化やサインに組織的に対応します。

(2) 全児童対象に、「いじめ調査」を年間3回（毎学期）実施し、いじめの状況を把握しています。

(3) 高学年児童を対象に、「学級満足度調査（Q-U調査）」を年2回実施し、一人ひとりの状況及び学級の状況を把握しています。

(4) 教育相談を実施しています。

- ① 「いじめ調査」を基にして、教職員が児童一人ひとりに対して面談による教育相談を毎学期実施し、児童の不安や心配事等の心の状況を把握しています。
- ② 『『いじめ』に関する指導の手引』の「いじめ早期発見のためのチェックリスト」を活用します。

(5) スクールカウンセラー（臨床心理士等）とともに、被害児童の心のケアを最優先に行います。また、必要に応じて、加害児童のケアも行います。

(6) 緊急な被害児童の心のケアに対しては、臨床心理士の派遣を教育委員会に依頼します。

(7) インターネットやスマートフォン等を使ったネットいじめ対策をします。

- ① 小学校低・中・高学年用のデジタル教材「事例で学ぶ Net モラル」（学校・園データベース参照）を道徳・社会科の授業や総合的な学習の時間等で活用します。
- ② 外部団体と連携し、専門的な立場から子どもへ指導します。
- ③ 教職員が「ネットモラル」の研修会に積極的に参加します。
- ④ PTA活動の一環として、「インターネットやスマートフォン等の安全な使い方」等の保護者研修会を実施します。

4 いじめ事案に対する対応

(1) いじめを発見、通報を受けた場合は、一部の教職員で抱え込まず、速やかに「学校いじめ防止対策委員会」に報告します。

(2) 被害児童を全面的に支え、守る姿勢で対応します。

(3) 被害児童からの聞き取り及び保護者への報告を行い、保護者とともに解決を図ります。

(4) 加害児童からの聞き取り及び保護者への報告を行い、相手への謝罪を含め保護者とともに解決を図ります。

(5) 周囲の児童からの聞き取りとともに、観衆的・傍観的立場に立つことが、いじめの助長につながることにについて、学級、学年、学校全体に指導します。

(6) 教育委員会に第1報をいれるとともに、対応策について継続的に指導・助言を受けます。

- (7) 犯罪行為として扱う必要のある事案については、早期に警察に相談し、連携して対応します。

第3章 いじめ防止のための校内組織

1 校内組織

- (1) 「学校いじめ防止対策委員会」を設置します。
- ① 構成員は、管理職、各学年代表、生徒指導主任、教育相談担当、養護教諭、スクールカウンセラーです。なお、必要に応じて、学校づくり協力者会議代表に委員会への参加を依頼します。
 - ② いじめ防止に関する措置を実効的に行うため、把握したいじめ事案について、「事実確認」「指導方針」「具体的な取組み」により、早期に解決を図ります。
 - ③ いじめの事実を明確にするための調査等を実施し、集約及び整理をして、児童及び保護者、教育委員会に報告します。
 - ④ 解決を図るために、教育委員会に継続的に報告をするとともに、指導・助言を受けます。
- (2) 「生徒指導に関する情報交換会」を行っています。
- ① 学校等で発生する様々な問題行動等について情報交換するとともに、対応策や指導方法について毎月協議しています。
 - ② 必要に応じて管理職、関係者等を交えて協議を行っています。

2 学校関係者及び各種団体との連携

学校は、平素から学校関係者及び地域関係者や団体と連携してきています。

- (1) P T A及び学校づくり協力者会議と協働しています。
- (2) 事案により、保育園、幼稚園、他の小学校、中学校と連携し、情報共有を行っています。
- (3) 主任児童委員、民生児童委員、青少年育成協議会、社会福祉協議会、自治会、四郷地区市民センター、北勢児童相談所等と連携しています。
- (4) 学校自己評価及び学校関係者評価において、いじめに係る検証を行います。

第4章 保護者と児童の役割

1 保護者として

保護者として、いじめに対する基本認識について共通理解し、学校と協力して、いじめをしない、させない取り組みをお願いします。

教育基本法（第10条）にあるように、保護者は、子の教育について第一義的責任を有していることから、生活に必要な習慣を身につけさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図ることが務めです。

- (1) どの児童も、いじめの加害者にも被害者にもなりうることを意識し、いじめに加担しないよう指導に努め、また、日頃からいじめ被害など悩みがあった場合は、周囲の大人に相談するよう働きかけてください。
- (2) 児童のいじめを防止するために、学校や地域の人々など児童を見守っている大人との情報交換に努めるとともに、根絶を目指し互いに補完しあいながら協働して取り組

んでください。

- (3) いじめを発見し、または、いじめのおそれがあると思われるときは、速やかに学校や関係機関等に相談または通報してください。

2 児童として

- (1) 一人ひとりが、自己の夢を達成するため、何事にも精一杯取り組むとともに、他者に対しては思いやりの心を持ち、自らが主体的にいじめのない学校づくりに努めてください。
- (2) 周囲にいじめがあると思われるときは、当該の児童に声をかけることや、周囲の人に積極的に相談することなどに努めてください。

第5章 関係機関との連携

1 警察との連携

学校は、学校警察連絡制度（平成16年4月協定締結）により、警察と連携して問題の解決を図ってきています。

- (1) 四日市南警察署（生活安全課）
- (2) 北勢少年サポートセンター
- (3) 四郷地区交番

2 他の関係機関との連携

学校は、事案に応じて、様々な関係機関と連携して適切な解決を図ってきています。

- (1) 北勢児童相談所
- (2) 四日市市子どもの虐待及び配偶者からの暴力防止ネットワーク会議
- (3) 人権センター
- (4) こども保健福祉課家庭児童相談室
- (5) 男女共同参画課
- (6) 文化国際課多文化共生推進室
- (7) 津地方法務局四日市支局及び四日市人権擁護委員協議会

第6章 重大事態発生時の対処

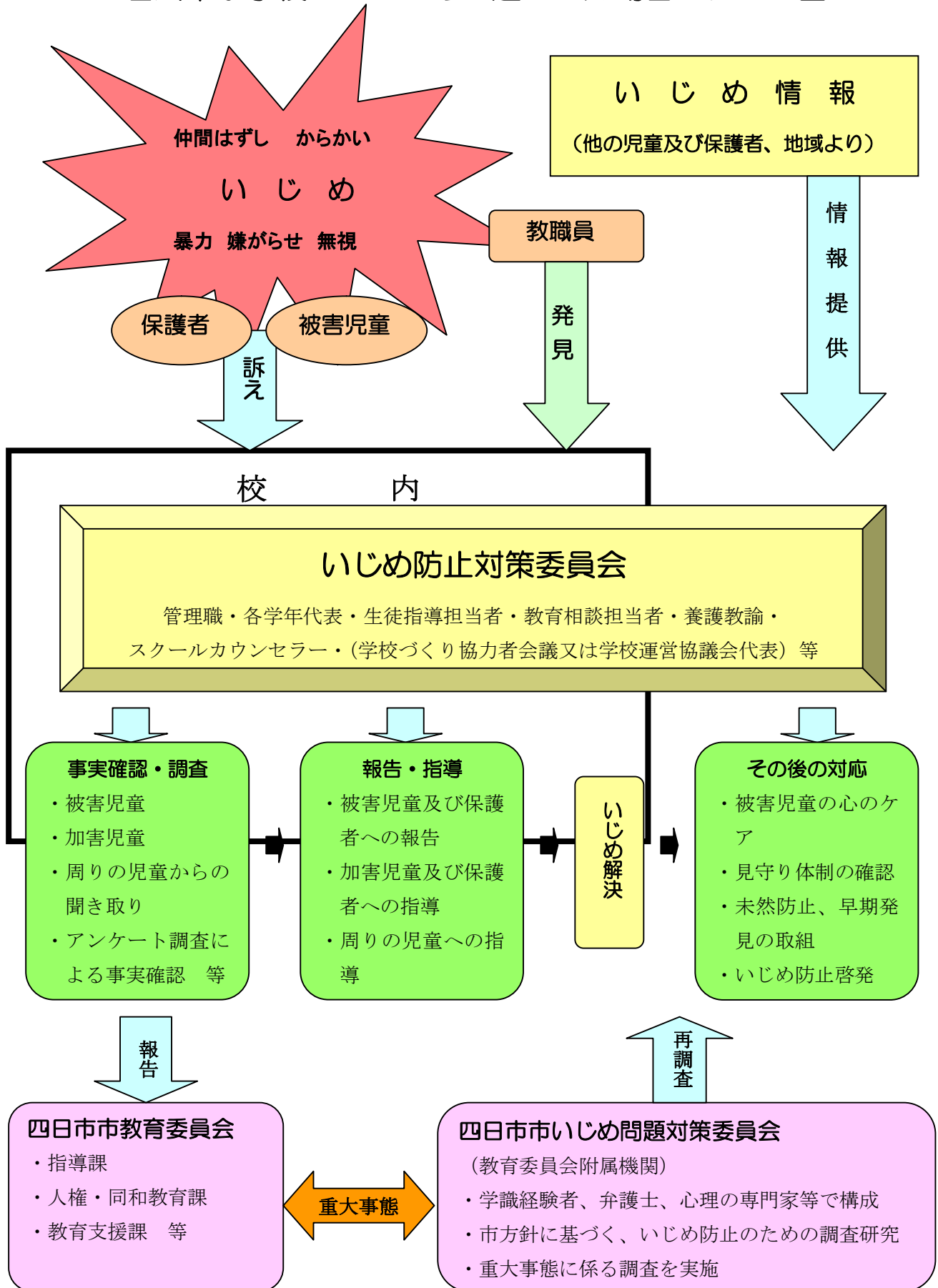
1 重大事態の意味（いじめ防止対策推進法第28条）

学校は、下記の重大事態が発生した場合には、直ちに教育委員会に報告するとともに、調査を実施します。また、当該の児童及びその保護者に対し、調査に係る事実関係等の必要な情報を適切に提供します。

- (1) いじめにより当該学校に在籍する児童等の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき。
 - ① 児童が自殺を企図した場合
 - ② 身体に重大な障害を負った場合
 - ③ 金品等に重大な被害を被った場合
 - ④ 精神性の疾患を発症した場合 等を想定しています。
- (2) いじめにより当該学校に在籍する児童が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき。

笹川東小学校

いじめが起こった場合のフロー図



笹川東小学校 いじめ防止対策年間計画

□:教師の活動 ○:児童生徒の活動 ◇:保護者の活動

学期	月	取組内容 (例)	指導のポイント
1 学 期	4 月	□: 学校間、学年間の情報交換及び指導記録の引継ぎ □: 指導方針及び指導計画等の策定と共通理解 【いじめ防止対策委員会・職員会議】 □・○: 学級開き(人間関係づくり・学級のルールづくり) 【始業式・学級活動】 □・◇: 保護者へ『いじめ防止対策』に向けた取組説明及び啓発 【PTA総会・家庭訪問】	・いじめの被害者、加害者の関係を確実に引き継ぐ。 ・全校体制で指導するためにも共通理解を図る。 ・学校がいじめ問題について、本気で取組む姿勢を児童や保護者に示す。
	5 月	□・○: いじめ調査<学校>の実施と活用 □・○: 教育相談の実施 【学級活動】	・学期に1回、いじめ調査を行う。書き込まれた内容を含めて、教育相談の時間をとる。
	6 月	□・○: いじめ防止啓発月間 【学級活動・授業参観】 ○: Q-U調査の実施と活用 【学級活動】 □: Q-U調査の分析と共通理解 ○: 話し合い活動『学級の課題について』 【学級活動】	・学校公開日に合わせて道徳(仲間づくり)の授業を公開し、保護者へ啓発する。 ・6月は児童の人間関係に変化が表れやすい時期である。 ・Q-U調査の実施時期に配慮する。(行事の前後は避ける) ・1学期の折り返しの時期にあたり、学級の課題を教師と児童が共有し、今後の活動に活かしていく。
	7 月	□・○: 話し合い活動『1学期の振り返り』 【学年・学級活動】 □: 1学期の生徒指導の振り返り 【職員会議】	・1学期の活動を振り返るなかで、いじめ防止対策の点検を行う。 ・1学期を振り返り、生徒指導上の課題を教師間で共有し、次学期へつなげる。
2 学 期	8 月	□: いじめや教育相談等に係る研修会への参加 【夏季研修会等】 □: 2学期の生徒指導について共通理解 【校内研修会】	・各研修会で、いじめや教育相談等についての研修を深め、今後の指導に活かしていく。
	9 月	□: 夏休み明け児童生徒の様子把握 □・○: いじめ調査<市教委>の実施と活用 【学級活動】 □・○: 教育相談の実施 □・○: 学校行事(運動会)をととした人間関係づくり 【学年・学級活動】	・夏休み明け、児童の様子の変化に注意する。(保護者へ連絡) ・行事に向けて、活動中の児童の様子に十分気を配る。
	10 月	○: Q-U調査の実施と活用 【学級活動】	・児童が主体となって活動できるよう、活動意欲と自覚を促す支援をする。 ・Q-U調査の実施時期に配慮する。(行事の前後は避ける)
	11 月	○: 話し合い活動『学級の課題について』 【学級活動】	・児童生徒が主体となって、いじめ防止に向けた取組を進める。 ・2学期の折り返しの時期にあたり、学級の課題を教師と児童が共有し、今後の活動に活かしていく。
	12 月	□・○・◇: 『教育活動に関するアンケート』の実施 【アンケート】 □・○: 話し合い活動『2学期の振り返り』 【学年・学級活動】 □: 2学期の生徒指導の振り返り 【職員会議】	・2学期の活動を振り返るなかで、いじめ防止対策の点検を行う。 ・2学期を振り返り、生徒指導上の課題を教師間で共有し、次学期へつなげる。 ・児童・保護者の意見を聞き、点検活動につなげる。
3 学 期	1 月	□: 冬休み明け児童生徒の様子把握 □・○: いじめ調査<学校>の実施と活用 【学級活動】 □・○: 教育相談の実施	・冬休み明け、児童の様子の変化に注意する。(保護者へ連絡) ・様子の変化については、教師間で共通理解を図る。
	2 月	○: 話し合い活動『学級のまとめに向けて』 【学級活動】	・新年度の学級編成に向け、人間関係に不安を感じ訴えてくる児童の声を拾う。
	3 月	□・○: 話し合い活動『一年間の振り返り』 【学級活動】 □: 指導記録の整理、進級する学年への引継ぎ資料の作成 □: 指導方針及び指導計画の点検と申し送り 【いじめ防止対策委員会・職員会議】 □: 中学校区連絡会の実施	・いじめに関する情報を確実に引継ぐための資料を準備する。 ・教師による教育活動の反省を参考に、次年度に向け、指導の準備を進める。